

全国高校総体（インターハイ）が、7月28日〜8月2日まで、郡山総合体育館で行われた。大会最終日に行われた男子シングルス決勝で、木造勇人（愛工大名電）が2年連続の優勝。そして4年ぶり、男子では12度目の3冠（団体・ダブルス・シングルス）に輝いた。

高校卓球とは敗北のスポーツである。最後に笑って終われるチーム選手は、全国でただ一つ。その他のすべてのチームの3年生は遅かれ早かれ敗れた悔しさを胸に卓球界を終わるのである。頂点に立つ者以外は全員が敗者となるインターハイ。その過酷さ残酷さに似つかわしくない優しさあふれる男が大会を振り返った。

プレッシャーの中の での優勝

「プレッシャーが半端なかったです。とにかく団体戦が優勝できて良かったです。シングルスは、全く

調子が良くなかったのですが、最後は良くなってきたかな、と思います」シングルスの優勝インタビューにも関わらず、木造は「団体戦」の感想を述べた。彼の人間性が良く出たコメントである。

確かに、調子は良くなさそうだった。要所で得点し、勝たせない、見ていてそう感じさせる試合が多々あったのだ。

「最終日1試合目の柏選手（関西高校）戦。スコアではストレート勝利ですが、すべて競り合い。そして相手にリードされる苦しい場面が何度もありました。でも経験があったから、慌てなければ大丈夫、と思ってプレーできました」

木造は、2017世界選手権デュッセルドルフ大会に、トレナーとして参加して、優勝したミックスダブルス（吉村・石川）をはじめ、多くの代表選手のスパarringパートナーを務めている。その経験が今回の優勝につながった、とも話してくれた。

木造勇人

KIZUKURI・YUTO（愛工大名電）

絶対に このユニフォーム で優勝する

「小学6年生の全日本選手権ホープスの部、中学3年の全国中学校大会で負け、卒業年度の大会に弱いです。だから、インターハイだけは絶対に優勝したくて」試合前に、木造はこう話した。

インターハイは、ダブルス、団体、シングルの順番で優勝が決まってくる。木造は、ダブルスで高見と

最終日の表彰式。
父・幹久さん、母・清子さん。



有言実行

3冠は目標でした。
これからが本当の勝負。

3冠目となる男子シングルスで優勝し、ベンチに入った今枝一郎監督と笑顔で抱き合う



を取ります。ただそれだけです」と普段はそんなことのない男が、感情を表に出した。迎えたシングルス決勝。

木造は、「ゲン担ぎ」をする。ゲンの良いユニフォームは「赤系ピンク系」だという。男子ダブルスで優勝した時は、全日本選手権ジュニアの部で優勝した「ピンク」。そして準決勝では「赤系」。シングルス決勝も「赤系・ピンク系」であることが容易に予測できた。

しかし、決勝は「青系」のユニフォーム。木造と「青系」のユニフォームは相性が良くない。3、4年前に「青系」はあまり調子がよくないので、試合では着ません」と話していたことがある。

優勝を決め、なぜ「青系」にしたのか聞こうとすると、驚きましたよね？と、機先を制された。

「青のユニフォームで1年生の時決勝で負けてしまいました。このユニフォームを大会前に見たとき『絶対このユニフォームを着てシングルスで優勝しよう』と思いました。2年前のリベンジです。それだけです」

優勝を決め、いつもの優しい男の笑顔で返してくれた。

